





とあり内あてハ桐葉下りあり一巻とせ給ふ

歿院 淨母曰

歿院下りま給ひて二巻は母まの淨服にあり
あつとせ給ひて一巻は父の位より大將の御沙
汰めて後一巻は位の時三巻は内へまよりそ
弘徽殿とす内四巻下り姫宮とすのみ居ま
左ち給ふ

私一巻は女一宮とあり三巻の末に三十一歳の
時入内あり四巻は院女御とあり

入道宮 淨母曰

女二あり帝とりと記くあり一巻は父まの御書
あり

くぐり給ひ一巻は五日の夜大將乃母乃侍り
給とせんし儀儀院の給ふ大將源氏まの御書
あひみだれてくぐりし御書給ひる中に弘徽殿の
くしきまんの御書ありて大將御書ひまのりて
をせ給ふ母后わが御書ありて奏し給ひ
はあがりちまはし一巻はひよそつあふ居七目と
りあふくれとせ給ひて残ら給ふとあがりては病
りことつあてぬぐりあり一巻は
私一巻は院のうちに御書ありと三巻にあり御書の
くぐりありあり

歿宮 淨母曰

四巻はむすれ給ふ今上乃一宮とあり

私男内子（黒）二巻の十月袴着（赤）

一和宮 清母（赤）弘徳太子の御孫中納言女（赤）

一巻は殿の内七巻にてはり下敷通（赤）とて母

君を（赤）とちぎしはむすの多への御孫とて奥

して常態（赤）といふとてむすれ給ふ百日

とて一徳流乃一和宮の御孫ありして母君

とて一づき給ふ三巻なりは袴（赤）とて太政大臣

まより給ふ四巻なり一和宮とて入てあり

私七巻の時袴（赤）なりゆひ大和と一本あり

四巻弘徳太子の御孫又二宮とて入りあり

の次あること此處に詳あり

中宮 清母（赤）式部卿宮内女（赤）坊門とて

はりのわんは位の時より給ひて一宮とて給ふは

えつとめとて一和宮なり皇太后宮とあり式部卿

の御孫へ乃下枝乃御孫あり

今姫君 母一和宮の御孫公孫中納言の御孫とて

一巻は東宮とてむす給ひて一づき給ふ御孫

とてむすのり出る御孫ありし御孫とてはり入る御孫

東宮とて一和宮の御孫は位の時三巻は御孫とて

中納言とて太政大臣の御孫中納言の御孫とて

中納言とて御孫とて御孫とて御孫とて御孫とて

四巻より刀をえりていかにあつて母代よりあつ
けりし人吉野川をいふわらふれとせり
いひし人

私母代ハ西國の受候と四巻よりあり

先帝

式部卿宮

これ給へる一巻より刀をえり
後式部卿宮

これ給へる一巻より刀をえり
宰相中将

一巻又宮少將とあり四巻より宰相とあり

〇二巻より父とあり母とありはひんそのおは

三位中将とあり

私一巻外に流し候とあり母とありはひんそのおは

男子 私一巻より今眼差のせりといふあり

今娘君とひとる版文の中將とありとあり

女家御持候とあり女家へおはせり一巻より宮に

藤臺后とあり衣法位の時一宮よりあり

私四巻より宮女御とあり一宮よりあり

堀河上

堀河の上は乃々かたにありて中宮と云ふは
てしや花やうりありやあまきくもてか

一たまふ

源氏宮 沛母中納言

沛母よむまれ給ひてやがて父帝よとられ給ふ
母の息一也と打けりさうせ給ひて堀河大屋の上
母文ははあやゆへおそやうがけふあゝてむ
くどりてうづま給ひてと狭衣たのむあまか
くうらふまを給ひりけけりありあり人とい
ふづにまけりひまをけりけり給ひくた

後上

後上の美言なりまのせんとうづまの給ひ
とけり乃々給ひたりと給ひてさうとありあり
て三巻なり母院よと給ふ

私 一巻より十五巻とあり二巻よあまは給ふたれ

まの服は給ふとあり四巻よ給ふとあり又

八通の文の中をとり給ふはありさぬとあり

堀河大屋上

四巻の中宮を給ふとあり中宮の法味は給ふ
あておそやうとあり下位乃は給ひり給ふ
狭衣大将の法味

私 一巻より大宮とあり

後醍醐天皇御成吉思

御成吉思天皇御成吉思
御成吉思天皇御成吉思
御成吉思天皇御成吉思
御成吉思天皇御成吉思

又同卷より甲午六歳
又同卷より甲午六歳
又同卷より甲午六歳
又同卷より甲午六歳

二巻の末に中務文の少将とあり
二巻の末に中務文の少将とあり
二巻の末に中務文の少将とあり
二巻の末に中務文の少将とあり

信の中將とあり
信の中將とあり
信の中將とあり
信の中將とあり

弘徽殿とあり
弘徽殿とあり
弘徽殿とあり
弘徽殿とあり

去部郷宮上
去部郷宮上
去部郷宮上
去部郷宮上

狭衣乃

私

横川傳都

女ニ交乃由グーサウー一隊人^{いんげん}后宮乃由也
あつべー
皇太后后宮沙由

太政大臣

後一條院^の沖^に社^に文^を世^り一^つあり^てセト人三卷一
今娘君の由より後宮の由腰のひ一人
一條院^の女侍

もは白皇太后宮と申れ三卷は尾はちる流ひて
女侍も実由後一多流二所^の交ちとの由母也

三卷は一葉の交りす三流は四巻にこれ終

東院上

堀川^の大臣乃由方今娘君と奉りて後一條院へ
まのりせんとのひ一人はるひ也

左大臣

一巻は指中納言又月五日^{あわぢみ}あは子の下^{あり}終ひ
秋^い野^い色^いひと一人三巻は權大納言と申り
一和交と申より中納言君にさしひり
一和交の由事さあひひし終ひ一人

○四巻は一の大納言とあり^{さうらうのひん}また史あり
私^の園^外乃^の流^は誤^り一^つ大納言も^も皇宮^の大^な史^とな^り

私云 三卷より三千歳

一巻にあり
右大尺

内膳之儀 奉仕位乃時まらんとせんとも
ん也

姫君

一巻より鼻高うんやのあひ一人権
中納言男にそふ親のやうにあやとひ
私 一巻より春文へまらんとせんともあはれ
後大尺納言

如右

いひめ君 御座り 御座り人とも四巻よりあり
後大尺納言

御平中納言

九列せうせめりうー

山

うらな志あし 一人二巻のまらり 後大尺納言
まらりてめし せりてのうらな志あし 一人
とひ終ひ一人 常終めて 佛のせり

お名升君

一巻より素素めて 威儀師よりまらんとせり
後大尺納言
後大尺納言
後大尺納言

後大尺

よ乳母がたう〜ひめてさ衣の大乳母乃子
式部大輔九列へりるにさむせけりやうと
あひて唐泊せりぬとさむせけり長門守れ
わ方よりあひて常盤守りて一あま生なり
て後尼りちるさくこれ終り
常盤守尼不

ゆとハ一多流の女流り中細云とてさくぬ長
門守よぬとさむせけりはく〜りぬ多流の
ゆ〜り人三巻よん〜り
小室相君
多流の女流りさくぬとさむせけり物終り

人長門守のよハあ〜り中巻よん〜り
松 四巻よん〜り中細とあり
常盤守り

今姫君の母
これハ長門守の始りるべし

一多流は童少てゆ〜り堀川大屋物乃終り
ゆ〜り今姫君の母とありぬとさむせけり又あ〜りこぶひと
里〜りさくぬとさむせけり

別當
一巻は右多流の終りて三巻は左多流の終りて
多流の姫君れゆ〜りと終りし人

多うりきやうぬ中納言のまけは又内侍のまけ

内侍の乳母

一巻は一おまの乳母と夜のまけ

まけの乳母おまうて下へおまう一人

中納言君

さ夜乃立まの乳推大納言にまけりこあられ

て堀は狭衣はる成母の内侍まけりし人

出雲の乳母と大納言の乳母と入道まの乳母あり

入道まの乳母とあまの乳母とまけりし人

ひし母まはは乳母まけりし人

少将内侍 女まの乳母とあまの乳母とまけりし人

新来奏せり一人二巻のまけり

大納言の乳母 源氏まの乳母室は八つあり

一おまの乳母一人ありまけりし人あり

三巻は狭衣のまけりし人

宇佐 名の乳母源氏まの乳母とあまの乳母とま

けりし人二巻のまけりし人

本幡の御乳母 堀河まの御乳母とあまの乳母との

御乳母加持せりし人

伊豫守

天着のまけりし人 堀河まの御乳母とあまの乳母との

せ一人

中納言 一巻は狭衣のまけりし人

あつては源氏文へまのり給ひてしるぬ文也
たにち事成るとありし時迄のうらまはひり人

中納言 同時中納言より侍りし人

侍臣 命婦 一巻より方の代乃後 堀川 左衛門 文

二巻 教也 せまも入道 文の侍の給ひり人

私 一巻より侍臣内侍とあり

宰相 中納言の姫君の乳母 一巻よりあやめ 文

よかて授衣よりなりし人 二巻のうらまはひり人
あつてし侍ひり人

乳母 一巻より小宰相といふ人 二巻よりあり

中納言 文の母 文の女房也 みらのまをてある

女侍 一人

女侍 命婦 一巻より文の女房とやくより授衣の

文より侍ひり人

中将 君 三巻より弘徽皇后のうらまはひり人の教と文の

女侍 一人

中納言 文 源氏文の女房と文へ授衣より侍ひり人

一人

長門守 文の女房と文の女

中納言 文の女房と文の乳母

私 一巻より女房と文より授衣より侍ひり人

文の女房のあり侍ひり人 長門守に大納言 文の女

舞しと二巻有り長門守の娘

大納言 又節舞し人二巻にたたり

春日の誓 ありて井乳母男

おろく ありて井乳母女

大納言 ありて井の女

かきくぬみみじ ありて井よりしはゆ

ありて井の乳母のふりてあり

たすの控 ありて一ふりてありてあり

ありてあり

中納言 ありて井の乳母のふりてあり

ありてあり

ありてあり ありてあり

ありてあり

ありてあり

ありてあり

ありてあり

ありてあり

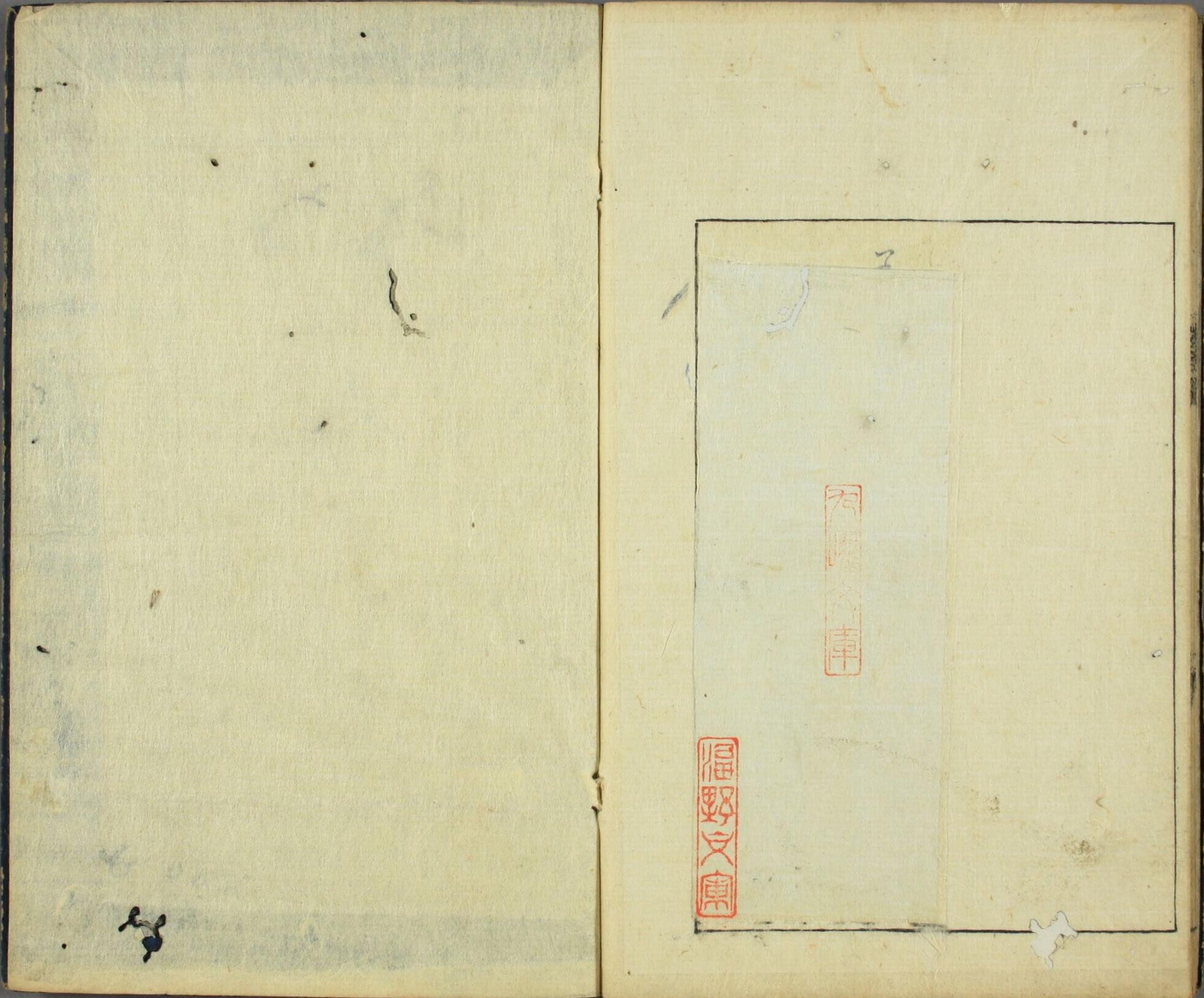
ありてあり

ありてあり

ありてあり

ありてあり

ありてあり



天
文
庫

海
文
庫

甲應之甲午歲季秋吉辰

谷是七左衛門格行

